



「見たり、聞いたり、探ったり」No.243

通算 No.395

青 木 行 雄

時代を見つめて

歴史が刻む感染症と新型コロナウイルス感染症の実態を探る

人類・人間は過去・大昔から、この感染症の脅威にさらされ、闘って来た。人類とウイルスとの戦争といえる。そして両者が存在する限り過去に何回も繰り返してきたし、これからも永遠に続く宿命かも知れない。また、天が人間への戒めでもあろうか。

人類と感染症との闘いの歴史

※ 3世紀「キプリアヌスの疫病」(天然痘?)

ローマ帝国で流行し、1日に5,000人が亡くなった。終末思想が広がったことや信者が感染者を献身的に看病したことでキリスト教の布教につながったとされる。

※ 7世紀「痘瘡ウイルス」(700～)(天然痘)

平城京時代に大流行した735年、大宰府から流行が始まったと「続日本紀」に叙述があるようだが、720年の「藤原不比等」の謎の死もこの病のようだとされる。この死亡率は50%と書かれている。この本によると58回の流行があったというから、以前から長期間続いていたのであろうか。

※①14世紀「黒死病」(腺ペスト)(詳細別記)

欧州の人口の3分の1が死亡したとされる。労働力不足で賃金が上昇し、土地を所有する農民が出て来た。人口減や都市への移住により各地で廃村が相次いだ。16～17世紀に繰り返し発生しているようだ。

※ 16世紀「天然痘」

スペインから中南米に持ち込まれた。免疫のない先住民に感染が拡大し、人口の9割が死亡したとされる。アステカ帝国やインカ帝国が減じる要因になったとみられている。

※ 19世紀「コレラ」

世界中で流行を繰り返した。公衆衛生への意識が高まり、上下水道が進むことになる。

※ 19世紀「結核」

産業革命とともに猛威をふるったとされる。

※②1918年「スペインかぜ」(大正7年)(インフルエンザ)(詳細別記)

第1次世界大戦の終結を早めるきっかけになったとする見方もある。

※1957年「アジアかぜ」(昭和32年)

インフルエンザ

※1968年「香港かぜ」(昭和43年)

インフルエンザ

※③2003年「SARS」(平成15年)(重症急性呼吸器症候群)(詳細別記)

コロナウイルスによる全身性の感染症。中国南部の広東省で発生し、コロナウイルスによる脅威で世界に広がる。

※ 2009年「新型インフルエンザ」(平成21年)

短期間で世界に広まり、グローバル化の影響を世界が認識する。コロナウイルスが原因。

※ 2012年「MERS」(平成24年)(中東呼吸器症候群)

※④2019年～(令和元年)「新型コロナウイルス」(詳細別記)

感染症が短期間で全世界に拡大し大変な事態になった。

すでに2020年4月末で感染者数

2020年(令和2年)4月30日現在 (単位:人)

	感染者	死者
全世界	3,195,316	227,705
アメリカ	1,040,488	60,999
イタリア	203,591	27,682
スペイン	236,899	24,275
中国	83,944	4,637
日本国内	14,129	457
東京都内	4,152	120

①14世紀に流行したという「黒死病」(腺ペスト)

死者は当時のヨーロッパの人口、3分の1から、3分の2にあたる。14世紀の末まで3回の大流行と小流行をくり返し、約2,000万人～3,000万人前後で正確には数字はわからないようだが、全世界で、8,500万人の人が死亡したと記されている。

②1918年(大正7年)に流行した「スペインかぜ」

このスペインかぜは、記録にある限り人類が遭遇した最初のインフルエンザの大流行(パンデミック)であると記されている。

スペインかぜの感染者は約5億人以上といわれ、死者は5,000万人から1億人にも及んだといい、当時の世界人口は約20億人であると推定されていたため、全人類の30%近くがスペインかぜに感染したことになる。感染者が最も多かったのは高齢者だが基本的には多く生き残ったといわれる。一方で、青年層に大量に死者が出たようだ。

日本では(当時大日本帝国)、当時の人口5,500万人に対して39万人が死亡したと言うから大惨事であった。そしてアメリカでも50万人が死亡している。これらの数値は感染症のみならず戦争や災害などすべての人の死因の中に入っているようだ。このように最も多くのヒトを短期間で死亡に至らしめた記録的なものであったと記録されている。

この流行の経緯を調べてみると、第1波は1918年(大正7年)3月にアメリカのデトロイトやサウスカロライナ州付近などで最初の流行があり、アメリカ軍のヨーロッパ進軍と共に大西洋を渡り、5～6月にヨーロッパで大流行したのである。

第2波は1918年(大正7年)の秋にはほぼ世界中で同時に発生し、病原性がさらに強まり重篤な合併症を起こし死者が急増していったようである。第3波は1919年(大正8年)春から秋にかけて、第2波と同じく世界で流行した。さらに最初の医師・看護師の感染者が多く医療体制が崩壊してしまったため、感染被害が拡大したといわれた。

この経緯を教訓として、2009年(平成21年)新型インフルエンザの世界的流行の際にはインフルエンザワクチンを医療従事者に優先的に接種することになったといわれる。

日本ではこの時一般市民がマスクを着用するようになり、学校が休校になっている。この後医療制度が見直された。

この時亡くなった日本の著名人

竹田宮恒久王(皇族)

末松謙澄(政治家、元内務大臣)

徳大寺実則(公爵、元内大臣)

辰野金吾(建築家)

西郷寅太郎(軍人)

③「SARS」(重症急性呼吸器症候群)とは

(SARS : severe acute respiratory syndrome)

SARSコロナウイルスによる全身性の感染症で、2002年(平成14年)11月16日に、中国南部の広東省で非定型性肺炎の患者が報告されたのに端を発し、北半球のインド以东のアジアやカナダを中心に感染が拡大し、2003年(平成15年)3月12日にWHOから「※グローバルアラート」が出され、同年7月5日に終息宣言が出されるまで32の地域と国にわたり、8,000人を超える症例が報告された。

感染経路は、飛沫および接触感染が主体となるが空気感染の可能性も否定出来ないという。コウモリをはじめ、ハクビシンやタヌキ、ネズミなどの動物が媒介する可能性も指摘されている。

※「グローバルアラート」→注意喚起

④現進行中の「新型コロナウイルス」について

中国・武漢市で発生したとされる新型コロナウイルス感染による肺炎の流行が続く中、「感染のピークは――」「いつ収束出来るのか」という疑問に関心があり、命にかかわる事でもあるので毎日がびくびくしているのが現状である。そして令和2年4月7日に安倍首相がこの新型コロナウイルスの感染者が急増している東京都など七都道府県に「緊急事態宣言」を発令し、政府は人の流れの減少率が休日に比べて低い平日の出勤者の削減に向けた要請に力を入れた。

そんな事から我が社も我が身を守る事や足並をそろえ社会にも同調する事、感染者の減少に協力する事でもあるので、電車通勤者には社用車の利用や時差出勤、時間短縮、交代出勤、テレワーク等で平日の出勤者を大幅に減少しながら仕事を続けている。

毎日報道される感染者や死者のニュースを見聞きするたびに心が痛み、早く収束を願うばかりである。

4月に入り世界で毎日何万人かの感染者が増加し、何千人もの人々が死亡している現状に怒りや恐怖が蔓延している。

新型コロナウイルスの発生地であるといわれている、中国の湖北省、武漢市とはどんな所なのか調べてみた。

中華人民共和国の中部、湖北省の東部に位置する所に武漢市はある。

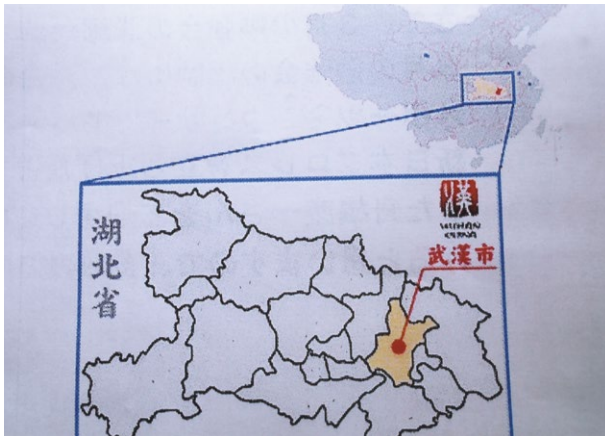
中国有数の工業都市でまた、文教都市でもあり湖北省の交通の要衝でもあると書かれている。

市の総面積は8,569.15平方キロメートル

武漢市の人口は1,089万2,900人(2017年)、1千万人以上の人口であるので、東京より少々少ないが、かなり大きな都市であることはまちがいない。

また、「百湖の市」とも呼ばれ、市内に数多くの湖があり、水域面積は全市面積の約4分1を占めるという。

中国の中・西部において1位といわれ、中国共産党中央委員会及び国家発展改革委員会により「超大都市」かつ長江流域3大コア都市(重慶・武漢・上海)の1つに指定されている。



中国、湖北省の武漢市の位置

森林については、武漢は住宅都市農村建設部と国家林業局により、「国家園林都市」と「国家森林都市」に指定されており、2016年（平成28年）の時点で、武漢市の緑被率は39.65%であり、1人当たりの公園・緑地の面積は、11.21平方メートルあり、森林率は22.88%あるという。

とにかく資料や写真を見る限りではすばらしく、教育にも力を入れ国立大学は武漢市内だけでも9大学、省立・市立大学は16校、軍事大学が8校、独立学院が8校、主な私立大学が15校、資料にあるだけでも合計56校の大学がある。

また、資料2017年（平成29年）の自動車保有台数は261万台で前年比30万台の増というし、路線バス、トロリーバス、BRT、地下鉄、路面電車などすべて整備され、すごい発展ぶりと言える。

そして、その武漢市にある発生源とされる海鮮卸売市場はどんな所か、もう少々ふみこんでみた。

その市場の名前は、湖北省武漢市江漢区に所在する生動物及び魚介類を扱う市場で、「武漢華南海鮮卸売市場」という。

世界保健機関によって新型コロナウイルス感染症の流行とこの市場に関連性があるとする声明がなされたことでメディアの注目を集めた。2020年1月1日に感染拡大の予防のために閉鎖されて以降、再開されていないという。（共に閉鎖されたという武漢ウイルス研究所も疑われているようだが？）

この市場は江漢区の漢口駅のすぐ近くにあり、面積は50,000平方メートル（約16,000坪）もあり、1,000店舗以上も収容され、武漢は元より、華中において最大の市場であるようだ。



武漢市の区の位置 市場は江漢区



武漢市漢口西北湖地区の夜景



漢陽・漢口、武昌の風景



武漢市にある国立大学の武漢大学。見るからに中国風である



野生動物取引市場、地床に並べられた動物の肉類、アナグマ、ワニ、コウモリなど

この武漢市場は海鮮市場としても有名であったというが、市場で取り扱われていた野生動物を含む扱い品目はなんと動物など112種もあったという。メディア報道により品目をあげて見ると、びっくりするような動物もあった。

その一部を記してみると、

- ・ハブ ・コウモリ ・ロバ ・ヒツジ
- ・アナグマ ・タケネズミ ・子オオカミ
- ・ヤマアラシ ・ワニ ・ジャコウネズミ ・キジ ・毒蛇 ・アクシスジカ ・キツネ
- ・オオサンショウオ ・ラクダ

などなどいずれも市場で取り扱われた肉である。



野生動物取引市場。こんな店が1,000店舗はあるという。大市場であった

2019年(令和元年)12月、武漢において肺炎の集団感染が発生した。暫定的な調査報告では肺炎患者の大半が市場への来訪者か市場で働いている従業員と関係があるとされた。

そして患者の1人の検体から肺炎は「新型コロナウイルス」によるものであることが特定された。SARS



売られている毒蛇



売られている肉の何かは想像出来ないが、何種類もあるようだ

コロナウイルスやMERSコロナウイルスなどと同じく、新型コロナウイルスは動物の体内を循環しており、市場でのヒトとの接触を通じてヒトに感染していったと考えられる。この様々な動物が売買されていた中でも、ヘビやコウモリなどが発生源であると考えられているようである。

2019年12月この武漢の市場で発生した事をいち早く中国政府は感知し、2020年1月1日すでに市場を閉鎖している。そしてその後ぞくぞくと中国国内外にも感染者が拡大していったのである。

新型コロナウイルス発生初期の状況

2019年	12月8日	中国武漢市新型コロナウイルス感染者確認
	12月31日	中国当局新型コロナウイルスと公表
2020年	1月1日	中国武漢市市場を封鎖
	1月16日	日本国内で初の感染者1人確認
	1月20日	中国「人から人」への感染を認めると発表
	1月20日	横浜港からダイヤモンドプリンセス号、中国の感染者1人を乗せ香港へ出港
	1月21日	日本政府が関係閣僚会議（新型コロナウイルス）
	1月23日	中国国内感染者585名確認と発表
	1月23日	中国武漢全市を封鎖
	1月26日	日本・武漢へ日本人救済にチャーター機派遣表明
	1月27日	現在の世界の感染者 中国－4,578人 タイ－8人 香港－8人 米国－5人 オーストラリア－5人 台湾－5人 マカオ－5人 日本－4人 シンガポール－4人 マレーシア－4人 ベトナム－2人 カナダ－1人 ネパール－1人
	1月28日	日本、中国武漢へチャーター機が出発
	1月29日	日本、チャーター機1便206人を乗せ日本に到着
	1月30日	帰国者のうち3人が感染者と判明
	2月3日	ダイヤモンドプリンセス号横浜港に入港

新型コロナウイルス感染者推移

	国 別	2020年1月27日	2020年3月7日	2020年3月31日	2020年4月30日現在	
1	全世界	感染者 4,592人	感染者 103,594人	感染者 786,291人	感染者 3,195,316人	死者 227,705人
2	中国	4,578人	80,651人	82,240人	83,944人	4,637人
3	アメリカ	5人	338人	164,620人	1,040,488人	60,999人
4	イタリア	－	4,636人	101,739人	203,591人	27,682人
5	スペイン	－	401人	87,956人	236,899人	24,275人
6	韓国	？	7,041人	9,786人	10,765人	247人
7	日本	4人	1,139人	2,070人	14,129人	457人
8	ドイツ	－	684人	66,885人	161,539人	6,467人
9	フランス	－	653人	45,170人	166,543人	24,121人
10	イギリス	－	164人	22,454人	166,441人	26,166人
11	ベルギー	－	109人	11,899人	47,859人	7,501人
12	カナダ	1人	？	7,448人	52,865人	3,155人
13	マレーシア	4人	83人	2,626人	5,945人	102人
14	スイス	－	214人	15,922人	29,407人	1,716人
15	オランダ	－	128人	11,817人	38,998人	4,727人

※米ジョージア州ジョージア大学システム科学工学センターなどの集計で、日経新聞より

この新型コロナウイルスがもたらした被害、人命、損失は測りしれない。世の中を一変してしまった。そして世界の祭典オリンピックまで変更し、人間日常の生活まで変えてしまった。しかし、14世紀、ペスト大流行の時イングランドでは人口が10分の1まで減ったという。それでも人々は生きのびてきた。疫病との闘いを通じて人類が生きのびてきたのである。今、これまで毎日時間におわれ、多忙の日々の中で、この新型コロナウイルスが発生した。今こそ自分を見つめ、自身、社会のあり



新型コロナウイルスに携わる、防護服を着ている人々
出典：ウィキペディア

方も反省する、コントロールできない自然の災害や目に見えない、ウイルスの脅威を受けながら、危機に際しては謙虚で柔軟に考えて社会の足並に従う事も大事であると思う。

この新型コロナウイルスがこれからの社会、日本、世界、人類の未来にどんな影響を与えるのか注目し、前向きに疫病と闘い生き延びるしかあるまい。頑張ろう。

参考資料

日経新聞、朝日新聞

ウィキペディア、読売新聞

令和2年4月30日 記